

講座

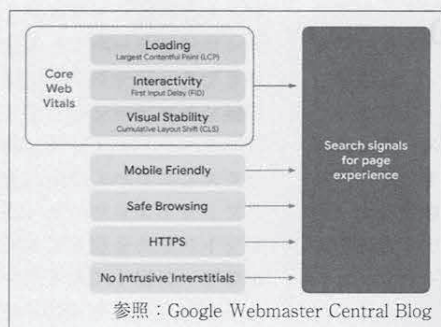
Web 広告

村山 哲治

知っておきたい Google の「コアウェブ バイタル」対策

■サイトを評価する新たな指標 「コアウェブバイタル」とは

Google は数カ月おきに、検索のアルゴリズムとなるさまざまなポリシーや指標を発表しています。それらはサイト作りや運営のあり方に大きく影響を与えるもので、当然SEO対策にもかかわってきます。その発表が5月末にありました。そこでのトピックは検索ランキングを既存のシグナル指標に「コアウェブバイタル (Core Web Vitals)」を組み合わせるとのことでした。



Googleによるとその実施は2021年からとのことなので、まだ少し時間がありますが、この対策はおそらくスタンダードとなっていくものだと思いますので、この「コアウェブバイタル」とは何か、どのような対応を求められているかについて解説してみたいと思います。

バイタルとは「重要なもの」「本質的なもの」という意味で、Googleでは以前よりユーザー体験の向上を目的とした取り組みを「ウェブバイタル」と名付け、UX（ユーザー体験）向上を進めています。

そしてこのコアウェブバイタルでは次の3点を重視しています。

- ページの表示速度が早いこと
- サイトの操作性がよいこと
- 視覚的な安定性が確保されていること

■コアウェブバイタルの3指標

Googleが発表しているコアウェブバイタルの指標は次の三つで、各指標をそれぞれ具体的にみていきたいと思います。

- ① LCP (Largest Contentful Paint) → 読み込み時間
- ② FID (First Input Delay) → インタラクティブ性
- ③ CLS (Cumulative Layout Shift) → ページ・コンテンツの視覚的安定性

こうしたページ閲覧時の快適性を評価する三つの要素がGoogle検索ランキングの要因の一つに加わるといった概要はご理解いただけたと思いますので、それぞれの指標についてもう少し掘り下げてみます。

• LCP

LCPとは、Webサイトのページの読み込み時間（速度）の指標です。UXの観点から読み込み時間がかかるWebサイトはユーザーにイライラや不快感を与えますので、読み込み速度を上げることが重要になります。具体的にコンテンツ表示までの時間が2.5秒以内であれば良好、2.6秒～4.0秒の場合は要改善、4.1秒以上は不良という判定になります。

• FID

FIDとは、Webサイトのページの「ボタン」や「リンク」など、ユーザーがページ操作した後の待機時間を測定する指標です。

これもユーザーが次のアクションにすぐ移れるようにすることが重要になります。

この待機時間が100ミリ秒(0.1秒)~300ミリ秒(0.3秒)が良好とされる範囲で、その前後が要改善、不良と判定されます。

・CLS

CLSとは、三つの指標の中でも具体的な場面をイメージしないと理解しにくい指標です。例えばページの読み込み中に広告やバナーがいきなり表示されるなどのレイアウト移動を表しています。当たり前ですが、ページを読み進めているときに広告が表示されると邪魔なため、できる限り表示させないのが重要となります。

ページの読み込み中にページ内のコンテンツがどの程度移動するかを指標化しており、画面内でレイアウト変更が起きた「範囲(%)」に「移動距離(%)」を乗じた数値が小さいほど高評価で0.1未満である必要があるとされています。

■運営サイトをコアウェブバイタルで最適化するには

この三つの指標を同列に対応する必要はなく、まず対応しやすい優先順位でいえば、ページの表示スピードを速くするLCPから行うのが良いと思います。

FIDやCLSの対策ができていて、サイトの読み込み自体速い傾向があり、このページ読み込みスピードを速くすることで合格点(90点程度)を取ることができます。

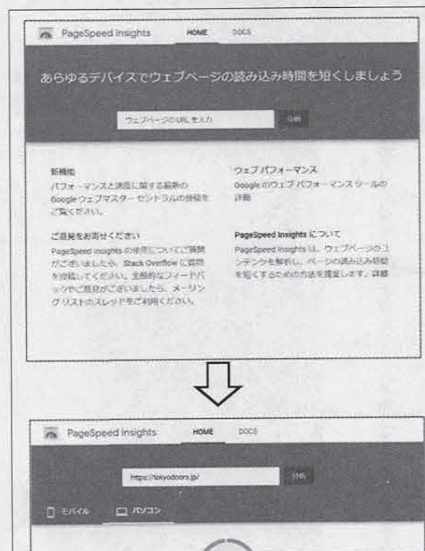
少し技術的な話になりますが、対応方法として画像を軽くすることはもちろん、余計なCSSなどを削除するなど、少しでもコーディングレベルで軽量化できることはこれからでもすぐに見直したほうが良いでしょう。

こうした対応を図る場合まず、現状の運用サイトがどのような状態なのかを把握しておくことが重要になります。

その確認方法のひとつとして「PageSpeed Insights」というサイトを活用することをお勧めします。

右上の画面キャプチャーは当社の事業サービスサイトのURLを入力した結果画面となります。このサイトは特に表示スピードなどを意識して作られていましたので、なんとか

合格点のようです。このようにコアウェブバイタル指標での計測結果はすぐに表示され、改善ポイントが明確になります。



参照：
PageSpeed
Insights

計測方法はこのほかにも Google Search Console に新しく追加された「ウェブに関する主な指標」という項目でも同様にコアウェブバイタルの具体的な数値が表示されるようになっています。サイトの改善には役立つツールになるはずですので、ぜひ試していただきたいと思います。

■検索ランキングの要因として重要なものとは

ここまで2021年に向けた Google 対応としてコアウェブバイタルを解説してきましたが、Google が検索ランキングの要因に導入したからといって、このコアウェブバイタルに適応させていくことが Web の運営における重要実践事項ではありません。Google は以前より検索ランキングで最も重要なのは、「ユーザーにとって良質なコンテンツ」として

つまりユーザーにとって役に立つ、便利な、分かりやすい、ためになるといった良質なコンテンツを発信し続け、より良い UX ができるサイトが結果的には評価され、検索上位に表示されるということだけは忘れてはならないことです。

(東京ドアーズ/人間力教育センター代表)